

地区名：阪谷地区

実施主体：食育のふるさと阪谷をよくする会

1 基本データ

- 地区人口 1,297人 (R2.4.1 現在)
- 世帯数 431世帯
- 行政区数 18行政区
- 面積 約31.2平方キロメートル
- 地区の沿革

阪谷地区は大野市の北東部、白山山系の経ヶ岳の麓に位置し、西は九頭竜川を挟んで富田地区、北は勝山市、東は五箇地区に接している。

集落は18。昭和29年の町村合併により、阪谷村が大野市となる。

標高250m～500の中山間地域で、大野市の中でも雪が多い地区で、面積の3分の2は山林であり、農地は圃場整備が進み広大な棚田となっている。

六呂師高原には、広さ220ヘクタールの奥越高原牧場、自然保護センター、青少年自然の家等の県の施設やミルク工房奥越前等の市の施設を有する。

2 現状と課題

■人口減少している実態

阪谷地区の人口は、ここ数年の状況を見ると年間約50人ずつ減少している。地区の高齢化率は大野市平均を上回っており、自然減少はこしばらく高い割合で続いていくと思われる。また、地区外への転出もあり、人口減少は続いていくと思われる。

■人口減少に対する対策

人口減少による地域力（ヒト・モノ・カネ）の低下を補う手段として、地区内へ人呼び込み、交流人口を増やすことが、地域力回復のキーワードになってくると思われる。

■阪谷のブランド化とインナーブランディング

交流人口を増やす事だけに目を向けるのではなく、阪谷地区が持つヒト、モノに磨きをかけ、ブランド化を目指すことが重要だと考える。その上で、インナーブランディングの観点で、地区民が、住んで良かったと思えるような活動を行っていく

必要がある。

■阪谷の次世代を担う人材の育成

人口減少、高齢化に伴い、地域活動の担い手も高齢化、担い手不足の状況がある。今後も活発な地域活動を継続していくために、次の担い手を育成していく必要がある。

3 事業の内容

今住んでいる人に目を向けて、【阪谷に住んでよかった】と実感してもらい、自ら考え、自ら実行して、【やってよかった】と感じてもらうために、【地域づくり活動で地域活性化を図る。】を基本目標とし、地域住民が自立的・主体的に地域課題の解決への取組みや、地域を活性化する取組みについて支援を行った。

○八町区の住宅案内板の更新

八町区は住宅案内板を平成4年3月に作製したが、現在は設置当初より集落件数が変わっていること、代替わりにより氏名が変わっていること、文字の毀損により分かり難く、近くの家に来訪者が行き先を尋ねて来ることも多いことから、住宅案内板を更新した。

新しい住宅案内板は集落の入り口付近に設置し、集落内にあった旧案内板は撤去した。

案内板のリニューアルや設置個所の変更により、利便性の向上が図られ、行き先を尋ねて来る来訪者の減少も期待できる。



(住宅案内板の更新)

4 事業成果

「地域づくり活動の支援」は、1集落ではあるが、地域住民が自主的・主体的に地域課題への取り組みが行えた。これにより、他集落の関心も高まることから、地域全体として地域全体として地域づくり活動への意識の醸成が図られると期待される。

5 今後の展望

阪谷地区は少子高齢化や社会情勢の大きな変化により、集落機能の維持や地域活動の担い手が困難になってきている。こうした中でも、【阪谷に住んでよかった】と実感してもらうには、地域住民と関係団体が主体的に連携した地域づくり活動が必要と思われる。

また、これまでに当交付金を活用し行ってきた「さかだに雪まつり」は、今年度は新型コロナウイルスの影響により中止となった。今後は、気象現象に加え、コロナ禍やコロナ後を踏まえた上でどのような形で実施していくかが課題とされる。